

会員寄稿

土崎港っ子の自伝記

(後半の部)

大島 錬三

(昭和29年工業化学科卒)



東芝府中工場を54才で退職定年となつてから現役当時の基板製造技術を生かし東芝関連会社や基板企業に勤めていましたが、60才以降は自分の自由な裁量時間が多く持てる生活を望みました。

59才のとき職安で調べた結果、職業能力開発コースとして小平市にある職業能力開発総合大学の化学専攻科で一年間受講(無料)するとその間の雇用保険を自動振込み受給できることが判って早期退職し、ここで1年間の環境化学コースを専攻しました。現在の職業能力開発コースは32年前と若干違うと思いますが、当時は2年間学ぶ若い一般学生と共に選択した環境関連の講義だけを受講し、他の時間は専用自習室で自主論文を書いておりました。子どもの頃は嫌いだっただ勉強が、いつの間にか苦にならない大人になっていました。

大高校で学んだ環境学を生かそうと職業訓練コース終了後に大気・水質・土壌・廃棄物を化学分析する市内の大手環境分析企業へ嘱託として勤め、環境規制される物質の微量成分分析を4年間手伝いました。ここでも専門書籍や環境情報誌が豊富にあつて勉強ができ、その成果を基板業界誌や業界新聞へ環境関連記事として掲載できました。しかしこの嘱託勤務は年金併用型のため年金は給与と相殺され実質はボランティア勤務に近く勤労意欲が次第に薄れてきた。

当時、どこの企業でもISO14001(環境)やISO9001(品質)の認証取得が流行り始め、これを機にこの二つの審査員資格を取得して環境分析企業を退社。以前から知人の多い基板企業のISO認証取得を支援する自営コンサルタント業(エコロジー大島)に切り替えました。

この頃、基板技術関連の学会等で活動していた基板専門の材料・加工・薬品・設備の各社OB技術者が40名ほど集まってNPOを作り、毎月1回の勉強会を開催し、各専門畑の方々が講師となって研鑽を兼ねた技術交流を行い、終わってから立食式で一杯飲みながら現役当時の思い出話やコンサルタント・講師・専門書籍執筆の情報を交換し、JOBに繋げ、今でも多くの仲間がこの活動に参加しています。現役当時は各社ともライバル同士だった訳で、日立・三菱・東芝・富士通・NEC・他や材料・設備メーカーなどの技術誌や講演会でしか知らなかった方々と呉越同舟の付き合いができました。私が、このNPOを作ったときの発起人のひとりだったせいか、設立2年目から理事長を6年間拝命しました。会員の主な共同作業は技術図書発行が2年に1回位、折々の月間技術誌へ論文投稿、多々の技術教育講師派遣とこの活動は14年間を経た今も続いています。

平成28年秋からの新しい活動は、基板業界後輩へアーカイブスとして残そうと“業界創業時の苦労話・失敗事例・裏話等”をプリント回路ジャーナルという業界紙へ月2回の連載を継続中です。

さて、私は仕事も好きですが旅行等のレジャーも大好きです。平成15年頃でしたが大手新聞の片面を使った“会員制の宿泊施設を安く楽しめる”の広告に釣られた。会員権を買って箱根・伊豆等の保養施設30箇所が会員は無料で泊まれるというパルアクティブ(株)の「オーナーズ・四季の旅」を130万円(会員権)で購入しました。

電気や建設関係大手企業の元保養所を複数名で宿泊すると会員は無料で済むというシステム。例えば、妻と一緒に一泊すると、妻が8千円で会員の夫は無料。即ち一流企業の元保養所へ8千円でも夫婦が一泊2食付きで温泉を楽しめる訳です。訪れてみると立派な保養所を賃貸契約で借り、板前から什器・浴衣までが居抜き運営のため、建物の一部や浴衣に貸主の社名が入っていました。毎月のように別荘

気分が泊まりに行きましたが、10年ほど経った頃、突然に倒産の知らせがあり会員権は紙くず同然に。会員が順調に増え、豊富となった資金でワンマンオーナーが中クラスのホテルを買い取り自前の宿泊施設化を始めたものの固定費アップが経営を圧迫し倒産！この種の一流企業の権利は1千万円以上が相場、安い物件にはくれぐれもご注意ください！

年金を頂く頃から八王子市の環境市民会議へ入会し、里山活動・生ごみ堆肥化・小学校の川の学習支援等のボランティア活動もしています。川の学習では4年生と一緒に近所の河川で、川の働き(写真1)・動植物観察・石と化石調べ・魚捕りを行います。幼き頃、勉強を後回しで遊んだ雑魚捕りが役立ちます。校外学習では、今どきの若い教師より昭和の田舎育ちは野外活動のスキルが格段と上です。

写真1



小学4年生たちと市内を流れる浅川でCODを測定

66才になった春、住まいの町会に広報部を作って頂き、毎月1回の“しもゆぎだより”という広報紙発行を始めました。A3版用紙のおもて面は町会の行事予定や活動報告、裏面には近所のニュースと地域内の歴史を調べ「古い由木への散歩道」と題し掲載しました。

表裏とも各3千文字位で記事を書き、町会予算の不足分は町内の企業や商店に有料広告掲載をお願いし、発行部数四百枚を各戸に配って喜ばれました。130号(11年間)を発行した所で表彰(写真2)を頂き145号からは後輩役員へバトンを渡し発行は継続されています。

写真2



“しもゆぎだより130号”を発刊し感謝状を頂く

以上の詳しい活動内容はホームページにアップされており、Googleへ次のカギかっこ内の単語で検索頂くと閲覧できます。プリント基板の技術活動は「NPOサーキットネットワーク」、環境活動は「東部地区環境市民会議」、町会広報紙は「しもゆぎだより」です。

補償コンサルタント・一級建築士事務所



株式会社 償 研

代表取締役 池田 昌憲 (昭和47年建築科卒)

本社 / 〒010-0062 秋田市牛島東2丁目1番30号
TEL. 018-884-0966 ・ FAX. 018-825-0903
E-mail : main@shoken.tv